



天皇、皇后両陛下パラオ 初訪問と戦後 70 年談話

平成 27 年 4 月 8 日午後、天皇、皇后両閣下は戦後 70 年の「慰霊の旅」で、初めて第 2 次大戦の激戦地、西太平洋のパラオ共和国を訪問された。ペリリュー島及びアンガウル島を含めたパラオ全体で日米計約 1 万 8 0 0 0 人（内日本兵約 1 万 6 0 0 0 人）が戦死した。パラオ政府主催の晩餐会で天皇陛下が「パラオの地において、先の戦争で亡くなったすべての人々を追悼し、遺族の歩んできた苦難の道をしのびたいと

思います」と戦没者と遺族に対して述べられた上に、パラオ、ミクロネシア連邦、マーシャル諸島の各大統領に対し、「貴国民に空襲や食糧難、疫病による犠牲者が生じたのは痛ましいことでした」「太平洋に浮かぶ美しい島々で、このような悲しい歴史があったことを、私どもは決して忘れてはならないと思います」と述べられている。翌 9 日には、ペリリュー島の「西太平洋戦没者の碑」に、日本から持参した白菊を供花され、さらに「米陸軍第 8 1 歩兵師団慰霊碑」にも花輪を供えられた。天皇陛下の気持ちを素直に表しており、戦後 70 年談話の内容について学識経験者による検討を進めているさなか、国民が共感できるように是非参考にしてほしいものである。
(TO 記)

表紙写真 海洋地球研究船「みらい」 提供先 JAMSTEC

（全長 128.5m、幅 19m 総トン数 8,706 トン、定員 80 名（乗組員 34 名／研究者 46 名）、竣工年 1997 年）

前身は日本初の原子力船「むつ」。1995 年に原子炉を撤去された「むつ」は、1996 年 8 月 21 日に通常のディーゼル機関を搭載した海洋地球研究船「みらい」と命名され生まれ変わりました。

優れた耐氷性、航行性を有し、広域かつ長期にわたる観測研究が可能な特徴を生かして、北極海や太平洋、インド洋など亜熱帯・亜寒帯海域での海洋調査を専門に、海洋地球研究の最先端国際洋上基地、多様な海洋地球データ発信基地としての役割が期待されています。

編集後記

大島商船名物の手旗踊りに関する記事をお願いし、今回掲載できました。残念ながら動画で紹介することはできませんが、「海のロマンス」の歌に乗って踊る姿が浮かびます。私も昨年日本丸が横浜出航した時の手旗踊りを YOU TUBE で「大島商船手旗踊り in 横浜日本丸」として紹介しています。

航海訓練所の実習は、短期実習が実施されるなど時期的な変化だけでなく、過去の時代の実習とは様変わりしているところがあります。ありのままの実習生活を見て頂くために、航海訓練所の承諾を得て同所のフェイスブックから掲載しました。現在の実習制度を理解する一助になればと思います。

MS 記

全船協 No. 128 春季号

平成 27 年 5 月 発行

◇発行所・一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇編集兼発行人 及川 武司

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-2-34 千代田三信ビル 8 階

TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653 E-mail:honbu@zensenkyo.com